

校長講話から

十一月の人権同和教育(なかよし)月間にかかわって、校長先生から次の内容の講話がありました。

「先日(の)会議で、会津若松市では、『あいづっこ宣言』というものを定めて、学校や家庭、地域みんなで取り組んでいるという話を聞きました。」

以下、「宣言」にこめられた内容をお話いただいた後、「こやまっこ宣言」をみんなで考えてほしいという提案がなされました。

小山小学校

あいづっこ宣言

- 一、人をいたわります
- 二、ありがとう ごめんなさいを言います
- 三、がまんをします
- 四、卑怯(ひきょう)なふるまいをしません
- 五、会津を誇(ほこ)り 年上を敬(うや)まいます
- 六、夢に向かってがんばります

今、子どもたちは、「こやまっこ宣言」の作成のため、一生懸命に「なかよし月間」の学習に取り組んでいます。どんな「宣言」が完成するか楽しみです。

(依田 周二)



学校行事

くぬぎ祭

この写真は、今年度の「くぬぎ祭」で神楽の演奏を披露する子どもたちの姿です。地域・支援者の方々をお招きして、十月二十三日の参観日に「神楽・笠鉦体験」、「昔の遊び・料理」、「観光マップ」、「鎌田山の自然」、「福祉体験」、「原始体験」といった講座毎に発表を行いました。

須坂小学校では、「総合的な学習の時間」の一部が学社連携・融合の立場で実施されています。三年生から六年生を縦割りにした講座を開設し、児童の希望で内容を企画し、学校と公

須坂小学校



民館、地域の支援を得て「くぬぎの時間」として体験学習が実施されています。支援者の地域の方々が熱心に取り組んでくださり、子どもたちも毎回この時間を楽しみにして、意欲的に活動してきています。その発表の場が「くぬぎ祭」です。

核家族化していく世の中で、他学年の子どもと共に、地域の方々に学ばせていただける機会があることを大変ありがたく思います。地域への感謝の気持ちを持ち、いっか地域の役に立てるように成長してくれることを願っています。

(脇坂 幸光)

地域との連携

みんながつながるわくわく村

高山小学校

高山小学校の特色ある教育活動の一つに「わくわく村」があります。これは地域・公民館・保護者等が連携し、子どもが地域でより豊かに学び合う場として、PTAが母体となって平成十六年度に立ち上げたものです。

ここでは、村の公民館や文化協会の講座とPTA主催の講座とが一体となって、学校ではなかなか機会のない学びの場を作り上げています。

活動期間は、五月の開村式から十一月の発表会まで、一日だけだったり、幾週かにまたがって実施されたりしています。そして、各講座の講師は、公民館活動で活躍される方だけでなく、保護者の方方もいらしています。

本年度設立されたのは十九講座。どろダンゴ教室や切り絵教室といった創作的な講座や書道や高山太鼓といった趣味や湯倉洞窟、ホタルの観察といった地域を知る講座もあります。

どの講座も魅力的な内容で、本来は一人一講座の参加なので

すが、中には複数の講座に参加されたり、子ども以上にひたこんで、その後、自分の趣味とされている保護者の方もおられます。また、翌年も同じ講座があると、それに続けて参加される方も多くいらっしゃいます。



子どもたちの学びの場作りとして発足したのですが、このように保護者も子どもと一緒に、地元の良さを知ったり、ゆったりと楽しんだりすることができています。この「わくわく村」が、今後もますます発展していかれることを願っています。(亀岡 俊範)

「子ども自らが動き出したくなる授業」とは

豊洲小学校

「子ども自らが動き出したくなる授業の創造」が本校の研究テーマです。自ら動き出したくなるというのは、授業改善の視点とも密接に関わりを持ちます。つまり、時間ごとの課題を明確にすること、課題に対して子どもたちが自己に問いかけたり振り返ったりする場を意識した授業を構築するという視点です。また、自己の困難に向き合ったとき、その困難を解決するための思考(試行)を助けるために有効な手だてを講じるという視点が必要

となります。

音楽での実践。音楽会に向けて「勇気のマーチ」という詩に出会います。少年の気持ちに寄り添い、詩を読み深めるという活動を経て、初めて歌と出合いました。歌詞への思いを膨らめ、導入は子どもたちの心を捉え、歌に対する思いを広げ、表現への願いを明確にすることに繋がりました。でも、実際に自分たちの表現を振り返ったとき、願いと表現のギャップに気づきます。そこで教師は、楽曲への思いを常に書き込めるよう工

夫した学習カードを用意します。互いの考えが交換できる模造紙大の楽譜を用意します。願いを同じくする者でグループを作り表現を深める場を設定します。互いのよさに気づき、意見交換しあう場を保証します。子どもたちは自分の課題を見据え、切磋琢磨しながら、時間が過ぎることも忘れ、ただひたすらに願いを追い求めました。「子どもが自ら動き続ける」姿がそこにありました。

自己の成長を実感できるとき、子どもたちは学びへの喜びを感じ、動き出したくなる、それを意識し授業に臨んでいきたいと思っています。(齋藤 俊道)

本校の研究

理科 新単元での試み

仁礼小学校

仁礼小学校では、全校研究テーマを『自ら自信を持って活動する「仁礼っ子」の育成』とし、理科と家庭科の二グループに分かれて取り組んでいる。

理科は、本年度教育課程研究協議会の会場校として、研究を積み重ねてきた。児童の実態から、「見通しを持った追究」が出来ていないこと、「実験結果を基に考察する」のが苦手なことが明らかとなり、ここに焦点を当てることにした。

「電気の発熱」の単元を取り上げた。新学習指導要領で、新しく取り上げられた単元である。

まず、見通しを持たせるために、学習カードで自分の考えてきたことが振り返られるように、そして気付いたことを書き込ませるようにした。更に、「自由試行」として、太さ長さの違う電熱線に乾電池の数を変えて電流を流し、発泡スチロールやロウを溶かす実験を、子どもたちに自由に組みませ

た。電熱線の発熱との関わりを持たせ、以後の予想の根拠となった。考察の場面では、実験結果から考察がしやすいよう、各班で結果を表にさせた。全体での確認も、各班での結果を比べて考察しやすいように表にまとめ、分かったことと疑問に思うことを分けて板書した。結果を基に自分なりの考察をさせる時に、教師側の手だてとして有効であることが伺えた。

焦点を当てた部分について、より多くの単元で実践の積み重ね、より効果的な在り方を探っていく。(米山 修一)

本校の宝(55) 相森中学校 運動会

相森中学校では、中学校ではめずらしい「運動会」を行っています。今年で六十二回目を迎えた伝統の行事です。あいにくインフルエンザと台風の影響で二回も延期になりましたが、例年のように今年も大勢の地域の方が見に来て下さいました。生徒や保護者だけでなく、地域の皆さんも楽しみにしてくれているのです。綱引き・大玉送り・各種リレー・男子騎馬戦に女子竹引きといった定番の種目もありますが、福祉施設との交流種目も心温まる場面です。見応えは何と言っても各学年の表現種目です。一学年は「スタンツ」つまり組体操です。フィナーレの五段タワーが成功するかどうかが毎年ドキドキですが、成功の瞬間の感動は何とも言えません。二学年は「相中ソーラン」で激しく踊ります。各学級のオリジナルダンスの出来映えもなかなかです。三学年は「行進」です。ただ隊列を揃えてひたすら歩くだけではありません。すれ違い・風車回転・何種類もの交差を組み合わせ、一糸乱れぬ行進で魅せます。交差では、何故生徒同士がぶつからないのか不思議な感覚になります。意外と難しく、何度も練習しな

いとできない技ばかり。各学年とも練習に練習を積み重ねます。同じ目標に向かって課題を解決しようとするがきながら、次第に心をひとつにしていきます。だからこそうまくいったときの感動はひとしおです。これぞ相中魂です。小学校と違うところは、競技の迫力もさることながら、多くの取り組みを生徒主導で行っているところだと思います。もちろん先生方は指導しますが、どの学年も生徒のプロジェクトチームが結成され、自分達の演技を自分達で作り上げようと取り組んでいます。学年が上がるにつれ生徒の主体性が育っていきます。(月岡 英明)



火ばら 談義



カット
東中 小林啓子

「よし、今日もやるぞ!」

伊藤 雅世

朝、教室に入ってくる子ども
の第一声だ。「おはよう」と声
をかければ、かえってくるのは
「太いロープの方がいいと思う
んだよね」という言葉と真剣な
面持ち。葉が色づき、木々がかわ
いらしい実をつけ始めた秋。
一年仁組では「じんぐみあきひ
ろば」と名づけて、遊び場づく
りに挑んでいた。校内で自分た

ちの好きな場所、やりたい遊
び方を決め、「ここに家があれ
ばいい」「ひみつ基地をつくら
う」「落ち葉のプールで遊ぼ
う」「木の実のお店を開こう」
「虫とりたんけんに行くぞ」と
それぞれに夢の遊び場を思い
描いた。

生活の時間に限らず、休み時
間となれば自分の遊び場に出
かける。時には、新しい道具を
持ってまた放課後やってくる。
「よっしゃできたぞ」太いロー
プで板を縛り、お気に入りの木
に結びつけた。立派なブランコ
の完成だ。たちまち行列ができ
た。今度はデイズニールランド並
みの看板をつくるそうだ。まさ
に無我夢中。二十四人の熱中人
ここにあり。明日は、どんな声
が聞こえるか。

(森上小)

ゲートボール

田中 敬士

出があります。

もう十年以上も前のまだ若
い頃、教研集会で「ゲートボー
ルのルールは喧嘩や嫌気がさ
してしまふマイナスの面があ
る。」と発言したところ、最後
の方で「地域にゲートボールを
紹介したのは自分ですが、今思
うとルールに問題があるので、
はなく、お年寄りの方の中には
負けることの学習がされない
時代に生きてきた。そのような
背景を考慮した方がよいので
はないかと思ひます。」と話さ
れた先輩の先生がいました。そ
れで、大変恥ずかしかった思い

その後しばらくして、豊丘小
井上小では自分から率先して
ゲートボールクラブを持たせて
いただきました。どの学校でも
地域のお年寄りの方やゲート
ボール協会の方から大変献身
的な協力をいただき県大会へ
も行きました。

今年も子どもたちの県大会
出場にあたり、職員で壮行試合
をしました。試合ではみんな負
けてきても笑顔でプレーでき
るように心がけました。

今年は県大会で優勝し、来年



の夏全国大会に出場できるこ
とになりました。

(井上小)

「ありがとう感謝します」

常盤中学校

塚田 京子

ここ数年、常盤中学校の親善
音楽会の発表曲には、必ず「ふ
るさと」が歌われます。

「ふるさと」と聴いても、ぴ
んとこない生徒もこの年頃には
多い中、本校の三年生は想いを
込めて、この歌を混声四部合
唱に歌い上げます。

ひとつには、先輩たちが歌っ
てきている曲ということもあり
ますが、もう一つには豊かな
自然に恵まれた環境の中に常
盤中学校が在するというお陰
だと思っています。

常盤中学校は、本田静六先生
の設計された壮大な公園計画
の中にあり、校舎のすぐ隣に鎌
田山という四季折々に美しい
変化を織りなした姿を見せて
くれる山があります。

この鎌田山からは、時々カモ
シカが降りてきて、校舎の後ろ
のカモシカ広場を散歩したり、
時として、授業をしている教室
をのぞいたりしていくことが
ありました。

また、イノシシなどもやって
きて、今年は生徒会の役員がカ
モシカフェスティバル用にと育
っていたサツマイモ畑に現れ、
夏休みの間に、すべて失敬した
りする事件も起こりました。

しかし、生徒はこのような自
然との共生の姿を大切にもら
え、大変穏やかに生活していま
す。

あと数ヶ月で卒業していく
三年生ですが、「山は青きふる



さと、水は清きふるさと」への
感謝の
想いを、
胸に、
「いつ
かの日
にか帰
らん」と
歌い上
げる歌
声は、
計り知
れない
逞しさ
と美し
さをも
つてい
ます。

編集後記

平成二十一年も残りわずかに
なりました。インフルエンザ等
の影響で、それぞれの学校では、
子どもたちの健康について心配
されたことと思います。子ども
たちが、元気に安心して生活で
きることを心より願います。

二一一年号をお届けします。引
き続き、原稿をメールにより送
付していただき、編集作業がよ
り迅速化されました。
お忙しい中、玉稿を寄せてい
ただいた皆様に心より感謝申
し上げます。

よいお年をお迎えください。
(栗林)